

日本臨床検査医学会 2019 年度 第 1 回理事会 議事録

日 時：2019 年 3 月 23 日（土）10：00～12：30

場 所：学士会館 2F 202 号室（東京都千代田区神田錦町 3-28）

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
宮地勇人、メ谷直人、木村 聡、古田 耕、松尾収二、吉田 博、大西宏明、柴田綾子、長沢光章、下 正宗、
藤井 聡、萱場広之、東田修二、田中靖人、通山 薫 各理事
高木 康、福武勝幸 監事 各監事（22 名）

欠席：小柴賢洋、松永 彰 各理事（2 名）

I 理事長挨拶（矢富 裕 理事長）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり理事会の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（吉田 博 担当理事）

2018 年度の採択課題、平成 26・27 年度採択課題 1 で 2 課題の最終報告に義務違反があり対応したこと、平成 28・29 年度採択課題の最終報告を第 65 回学術集会で開催したこと、2019 年度の募集期間を 2 月末日から 4 月末日に延長したことが報告された。

2) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事、古川泰司 委員長）

診療報酬改定に向けたコスト調査を、日本臨床検査専門医会・日本臨床衛生検査技師会と合同で実施し、内保連・領域別委員会での報告内容に応じて、一次提案を共同提案として行う案件について調整を行っており、内保連提案書締切の 4 月 22 日に向けて、日本臨床検査専門医会と調整のうえ提案書作成作業していることが報告された。

3) 学会賞委員会（松尾収二 担当理事）

2019 年度の学会賞募集、選考日程等が報告された。

4) 標準化委員会（古田 耕 担当理事）

2018 年度活動報告がなされた。

5) 利益相反委員会（古川泰司 担当理事）

2018 年度活動報告がなされた。

6) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事、吉田 博 委員長）

2018 年 12 月 31 日に臨床検査のガイドライン JSLM2018 年版が発刊されたこと、2018 年版の宣伝とコア部分の周知を目的として、学会ホームページ上に目次の掲載とともに、第 1 章「検査値アプローチ」の以下の項目（1. 初期診療の検査オーダーの考え方、2. 検体検査のサンプリング、3. 基準範囲・臨床判断値、4. 検査データの読み方と考え方、5. 検体の保存安定性）の部分を pdf ファイルで印刷可能で公開すること、第 66 回学術集会で委員会企画として臨床検査のガイドライン 2018 の概要についての発表を検討していることが報告された。

7) 広報委員会（木村 聡 担当理事）

羊土社「レジデントノート」誌に臨床検査専門医による「検査の Tips!」を連載しているが、執筆者を募集していること、第 30 回日本医学会総会 健康未来 EXPO2019 に専攻医募集のためのパネル展示を製作したこと、第 66 回学術集會に医学生の自主的勉強会を招き、CPC を行う計画が進行中であることが報告された。

8) 医療安全委員会（吉田 博 担当理事）

第 66 回学術集會で、2019 年度医療安全講習会を、テーマ：医療法改正に伴う検査精度管理・院内検査の体制・検

査フローにおける医療過誤への対応（仮題）として開催を予定していることが報告された。

9) 臨床検査専門医制度検討委員会（木村 聡 委員長）

臨床検査専門医の役割と重要性について、社会にアピールする目的で、ホームページ掲載文の原案が示され、意見があれば、お知らせいただくこととなった。

10) 臨床検査管理医試験実行委員会（東田修二 委員長）

2019年度実施第11回臨床検査管理医講習・認定試験は、2019年8月4日（日）に帝京大学において、臨床検査専門医認定試験と同時開催する予定であり、実施要領を臨床病理66巻1号とホームページに掲載したことが報告された。

11) 臨床検査室医療評価委員会（村上正巳 委員長、古田 耕 理事）

ISO 15189に基づく自己診断テストについて、臨床検査室医療評価委員会で検討することが報告された。

3. 第66回学術集会報告（岡山 2019/11/21(木)～11/24(日)）（通山 薫 会長）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催予定であり、特別講演、シリーズ特別企画・臨床検査に何を求めるかー各科スペシャリストからの提言、ポスター発表と企業展示、学生フォーラム、他団体との共催企画、日本医学会連合連携フォーラム共催事業として日本病理学会との共催シンポジウム企画中であること、学術集会演題抄録登録システムの継続運用（有償）の方針が決定したこと等が報告された。

4. 第67回学術集会報告（岩手 2020/11/19(木)～11/22(日)）（諏訪部章 会長）（東條尚子 庶務理事）

2020年11月19日（木）～22日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AIと臨床検査に関する情報集約と共有化の企画、日本医療情報学会と共催シンポジウムを開催すること、最終日午後を盛り上げる企画を検討していることが報告された。

5. 第11回特別例会報告（名古屋 2019/4/13(土)）（前川真人 特別例会長）（東條尚子 庶務理事）

2019年4月13日（土）に、名古屋国際センター（別棟ホール）で、前川真人特別例会長（浜松医大）のもと、テーマ：「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、第11回日本臨床検査医学会 特別例会が開催予定であり、特別講演、特別例会長講演、シンポジウム1、2、ランチョンセミナーのプログラムが、また、シンポジウム1、2特別講演は臨床検査領域講習として認定されていることが報告された。

6. 2020年度からの名誉会員、功労会員、評議員の推薦依頼について（矢富 裕 理事長）

- ・名誉会員、功労会員の資格要件、各支部の名誉会員、功労会員該当者が報告され、支部より、9月17日までに、本人の承諾を得たうえでの推薦が依頼された。
- ・評議員の資格要件、支部正会員の10%の評議員候補者定員数が示され、9月17日までに、都道府県別、所属機関別に偏らないよう検討のうえでの推薦依頼がなされた。

7. 臨床検査専門医認定試験（東京 2019/8/3(土)～4(日)）

第36回臨床検査専門医認定試験（2019年度実施）は、2019年8月3～4日（土日）、帝京大学医学部で、古川泰司試験実行委員長のもと実施予定であり、臨床病理1月号、ホームページに試験実施要領を公開したことが報告された。

8. 臨床検査管理医講習・認定試験について（東京 2019/8/4(日)）

第11回臨床検査管理医講習・認定試験（2019年度実施）は、2019年8月4日（日）、帝京大学医学部で、東田修二試験実行委員長のもと実施予定であり、臨床病理1月号、ホームページに試験実施要領を掲載したことが報告された。

9. 2018年度学会賞：功労賞・河合忠賞の推薦依頼について（矢富 裕 理事長）

2018年度学会賞：功労賞・河合忠賞候補者の推薦依頼があり、規定に合致した候補者について推薦理由を添えて7月31日までの推薦依頼がなされた。

10. 支部会参加登録のための PC について (矢富 裕 理事長)

支部総会・例会で参加登録を行なっている PC が古くなり、OS (XP) のサポートが切れているため、新しい PC を希望する支部があったことについて、2008 年に支部会の参加登録のために、QR コードを読み込む設定をしたうえで、学会から支部に渡した PC およびバーコードリーダーのことであるが、ネット接続をせずに参加登録するのみであれば、サポートが切れても問題はないと判断し、継続使用が依頼された。しかし、新しい PC が必要という場合は、PC の購入代金等は支部負担とし、2019 年度支部活動費からその実費を差し引くこと、また、その申込みは 3 月末日とすることが報告された。

11. 当会からの派遣委員推薦について (更新) (矢富 裕 理事長)

前回、理事会 2018 年 12 月 22 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員候補者 (2018/12/27 に推薦)
東田修二先生
- 2) 厚生労働省 社会保障審議会統計分科会「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」専門委員 (2019/1/18 に推薦)
古田 耕 先生

12. 職員就業規則の改定について (東條尚子 庶務理事)

職員就業規則の定年について 60 歳として一定の期間、再雇用する規則から、65 歳定年とする規則としたことが報告された。

13. 日本臨床検査同学院報告 (矢富 裕 理事長)

2018 年 12 月 23 日～2019 年 3 月 23 日の臨床検査士資格認定試験、部会活動、遺伝子分析科学認定士試験、POCT 測定認定士試験等の予定について報告された。

14. 臨床検査振興協議会報告 (矢富 裕 理事長)

各種委員会報告、事務所を移転すること、法人化を進めることについて報告された。

15. その他

- ・支部活動費、第 66・67 回学術集会補助金、専門医認定試験、管理医認定試験費用送金について (古川泰司 会計理事)

4 月以降に送金予定の支部活動費 (一律 20 万円+支部会員数×500 円)、学術集会補助金、臨床検査専門医認定試験および臨床検査管理医認定試験費用の送金について報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 2018 年度に関わる事業報告・会計収支決算報告について (東條尚子 庶務理事、古川泰司 会計理事)

・事業報告書、貸借対照表、監査報告書が提示され、事業報告については東條尚子庶務理事から会議、会員数、関連団体行事、経過及び実績、活動、各種委員会、対処すべき課題として学会の活性化、専門医ならびに管理医の養成そして倫理観の向上等の報告があった。

・会計収支決算報告については、古川泰司会計理事から報告、説明があった。

一般会計については、会費収入、専門医関連収入、学会機関誌事業収入は、予算に対して減額となっており、支出については、事業費、管理費とも支出が抑えられていることにより、結果として収支差額はプラス十数万円であった。特別会計、アジア交流基金、学会賞基金については、予算通りの執行状況だった。

以上が報告され、高木康監事より、2019 年 3 月 5 日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務遂行、会計報告書類は正しく記載し合致しておりの確であると監査報告があり、承認された。

第 64 回学術集会计計報告は既に理事会で報告済みであるが、2018 年度に係る定時社員総会で、2018 年度会計報告と第 64 回学術集会计計報告を承認を得たうえで合算して税務申告する。なお、学術集会计計報告は、定時社員総会への報告、税務申告は会計のまとめの都合上 1 年遅れとなる。

2. 会計監査での監事からの提案について (矢富 裕 理事長、古川泰司 会計理事)

- 1) 日当について：2017 年 9 月 2 日 (土)、2017 年度第 2 回理事会で、国公立大学 2 大学よりガイドラインに基づ

く公表の打診に際して議論があり、その結果、すべての日当が廃止されていたが、日当の要不要については、各個人が選択できるようにすべきとの提案があったことについて検討された。理事会、社員総会については不要と判断されたが、各種委員会では委員に意向を確認することとなった。

2) 会員増加対策：会費収入が減っているため、会員増加の対策を検討すべきという指摘があり、今後、常任理事会を中心に検討していくこととなった。

3) 学術集会補助金：シードマネーの 100 万円のみとすべき、ただ、不足の場合には学会が補填すべきとする提案があり、第 66 回学術集会から実行することとなった。

4) 臨床検査管理医の受験料と登録料を臨床検査専門医と同額にする提案：

現在、専門医は、それぞれ、50,000 円、30,000 円、管理医は、30,000 円、10,000 円である。専門医を増やす努力をすべきであり、同額とするか、あるいは専門医より高い設定として、管理医資格で満足するのではなく専門医資格も取得する方策としてという説明があり、まずは、臨床検査専門医・管理医審議会で検討することとなった。

3. 第 65 回学術集会会計報告（東京 2018/11/15(木)～11/18(日)、村田満 会長）（矢富 裕 理事長、柴田綾子 理事、古川泰司 会計理事）

2018 年 11 月 15 日～18 日に東京で村田満会長の元、開催された第 65 回学術集会会計報告が柴田綾子事務局長から、また、追加報告が古川泰司会計理事からなされた。ランチョンセミナー等の共催収入が多額であり、学会からのシードマネー以上の 540 万円の収支差額があった。ただ、情報交換会の経費が参加収入と比べて高額であったが、より多くの会員が参加し易くするためとの説明があった。適切に運営されていると承認された。

4. 2018・2019 年度委員会委員の一部追加について（矢富 裕 理事長）

学術集会企画委員会委員の追加、「基準範囲」に関わる用語についての検討ワーキンググループ及び ICD-11 和訳タスクフォースの構成委員が報告され、承認された。

5. 選挙管理委員会の設置について（矢富 裕 理事長）

2019 年度（2020・2021 理事、2020・2021・2022・2023 監事）選挙のため、細則の第 5 章 選挙管理委員会、第 14 条「理事長は、評議員または評議員経験者の中から選挙管理委員を若干名任命し、選挙管理委員会を組織する。」により、選挙管理委員会を設置するため、高木康 監事、山田俊幸、古川泰司、古田 耕 各理事 を委員に指名することが提案され、承認された。

6. 倫理委員会のアンケート実施について（矢富 裕 理事長、倫理委員会 古川泰司 担当理事）

倫理委員会では 2017 年に改訂した「臨床検査を終了した残余検体（既存検体）の業務、教育、研究のための使用について－日本臨床検査医学会の見解－（2017 年）」について、改訂後、約 1 年を経過したこの時点で、その運用の実態、問題点、その他のご意見を募ることを目的としたアンケート実施が提案され、承認された。

7. 日本専門医機構臨床検査専門医 2019 年 4 月研修開始専攻医応募について（山田俊幸 副理事長）

カリキュラム制専攻医 11 名、プログラム制専攻医 8 名、合計 19 名であることが報告された。

8. 日本専門医機構臨床検査専門医カリキュラム制研修基準（案）について（山田俊幸 副理事長）

2019 年 2 月 22 日付で日本専門医機構より、基本領域における新専門医制度「専門医制度新整備指針におけるカリキュラム制による研修 素案」により 2019 年 6 月末日までカリキュラム制の作成依頼があった。その案が示され、意見があれば、お知らせいただくこととなった。

・日本核医学会からの要望について

日本核医学会を日本臨床検査医学会の Subspecialty 領域学会として認める要望があったことについて検討され、現在は、Subspecialty 専門医についても厚生労働省が指導的な立場となっており、慎重な対応が求められるため、要望の背景について確認をすることとなった。

9. 名誉臨床検査専門医認定制度規定（案）について（山田俊幸 副理事長）

昨年末（12/22）の審議会、理事会で、定年など年齢的な理由で、臨床検査専門医（学会認定ならびに機構認定）の

更新を断念された先生に対して、「名誉臨床検査専門医」を付与することが承認されていた。その規定案が提案され、承認された。

10. 2020・2021 年度臨床検査専門医認定試験実行委員長及び会場について（矢富 裕 理事長）

2020・2021 年度実行委員長として東田修二先生（東京医科大学）、会場については、帝京大学（2020 年）で実施すること、ただし、2021 年度の会場については、可能であれば帝京大学、不可であれば別途検討することが提案され、承認された。

11. 2020・2021 年度臨床検査管理医講習・認定試験実行委員長について（矢富 裕 理事長）

2020・2021 年度実行委員長として山田俊幸先生（自治医科大学）、会場については、臨床検査専門医と同様とする提案があり、承認された。

12. 日本人基準ゲノムという言葉について（矢富 裕 理事長）

東北大学のバイオバンクから日本人基準ゲノムという言葉が出力されたことについて、昨年末より「基準範囲」に関わる用語についての検討ワーキンググループで議論したことを踏まえると適切な言葉の使い方とは思えないため、意見文書を東北大と AMED に送付することとなった。

13. 第 70 回学術集会（2023 年度）会長について（矢富 裕 理事長）

2023 年の第 70 回学術集会の開催場所、会長について、学術集会企画委員会に検討を依頼することとなった。

14. 2021 年度からの学術集会運営会社について（矢富 裕 理事長）

2018 年～2020 年まで運営事務局・会社を 3 年間固定化しているが、2021 年からの運営事務局も同様にするか協議され、学術集会会長は決定しており、可能な限り早めに学会としての方針を決定する必要があるため、本年末までに学術集会企画委員会に検討を依頼することとなった。

15. アルブミン測定標準化に関わる WG について（矢富 裕 理事長）

血清アルブミン値を標準化するためには、検査施設全てで BCP 改良法を採用すべきであり、今後の診療報酬改定で要望するため、当会でアルブミン測定標準化に関わる WG を設置したい。座長として前川真人先生（浜松医科大学）に依頼し委員選定も一任したいと提案され、承認された。

16. My Page について（東條尚子 庶務理事）

My Page 作成については、理事会、社員総会、また、そのための予算として 500 万円が承認されている。現在、事務局で内容を検討のうえ、システム会社を選定しており 3 社に絞った。3 社の内容が提示され、今後は、プレゼンを実施して選定していきたいと考えており、引き続き、常任理事、事務局で進めていくことで承認された。

17. 職員の昇給について（東條尚子 庶務理事）

事務局職員 2 氏は、3 年間昇給が実施されていないが、これまでの貢献を評価し、常任理事会で検討し、月 1 万円の昇給を実施したいと提案があり、年間 50 万円弱支出増となるが会計理事からの了承も得たため、承認された。

18. その他

・患者レジストリ、コホート研究に関する提案（矢富 裕 理事長、古田 耕 理事）

患者のレジストリやコホート設定について、当会としてどのような設定が将来的に役に立つのか、他の学会を含む方々にもこの枠組みを通して検体や情報を提供できるような開かれた枠組をつくる検討を開始する提案があり、方向性として承認され、具体的には、古田理事に検討いただくこととなった。

・ASCP—ISBER による臨床検査技師の資格認定問題作成 project について（矢富 裕 理事長、古田 耕 理事）

ISBER と ASCP の臨床検査に関わる学会が共同で、バイオバンクで働く方の資格認定試験を検討しており、臨床検査技師が資格認定の主要な対象になることが否めないため、当会としても注視する必要があると報告があり、当会としては情報収集し理解に努めることとなった。

・アンケート等の入力フォームについて（矢富 裕 理事長）

出欠・アンケート等について Google フォームを利用しているが、セキュリティ面の心配があるため年間 10 件程度

なら年間1万円程度で利用可能の有料のフォームを使用する提案があり、承認された。

・2019年度 審議会、理事会日程の確認（東條尚子 庶務理事）

次回以降の2019年度の臨床検査専門医・管理医審議会、理事会の日程が報告され、確認の依頼がなされた。なお、本年度の理事会は平日開催とした。

第1回審議会：6月29日（土）10：30～12：00

第2回理事会：7月12日（金）15：00～17：30

第2回審議会：8月31日（土）10：30～12：00

第3回理事会：10月18日（金）15：00～17：30

第3回審議会：12月20日（金）13：00～14：30

第4回理事会：12月20日（金）15：00～17：30

IV 閉会

閉会の言葉があり、2019年度第1回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2019年4月12日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 矢 富 裕



副理事長 山 田 俊 幸



監 事 高 木 康



監 事 福 武 勝 幸

